

# 新見公立短期大学ニュース No. 1 2004.8.20

発行：新見公立短期大学 (〒718-8585 岡山県新見市西方 1263 2)

tel: 0867-72-0634(代) fax: 0867-72-1492

URL: <http://www.niimi-c.ac.jp/> e-mail: [niimi-c@niimi-c.ac.jp](mailto:niimi-c@niimi-c.ac.jp)

## ニュース発行御挨拶

### 学長 難波 正義

この度、新見公立短期大学のニュースを発行することにいたしました。大学のことをなるべく多くの方々に知っていただきたいこと、そして、今後の本学の在り方にご助言ご支援をいただきたいこと、などをニュース発行の目的としています。皆様のご支持がなければ大学の将来の発展はありません。よろしくお願いたします。

私は次の項目を本学での教育理念としています。

1. 思いやりのある
2. コミュニケーションのできる
  - 1) 自分の意見を相手に伝えることができ
  - 2) 相手の意見を理解でき
  - 3) 適正に対処できる
3. 学ぶことを生涯つづけることのできる
4. 専門に関する基礎的知識と技術を習得した

学生を育てることです。

## 文部科学省の「特色ある大学

## 教育支援プログラム」に本学

## の「にいみこどもフェスタ」が

## 採択される！

全国からの申請数 534 件中 58 件が選ばれる

本学幼児教育学科が、同学科長の片山啓子教授を中心に 1992 年より取り組んできた「にいみこどもフェスタ」が、文部科学省の 2004 年度「特色ある大学教育支援プログラム」に採択され、本学関係者を喜ばせている。本プログラムは新見市が運営するホールである「まなび広場にいみ」にて開催される幼児教育学科の表現発表会であるが、新見市と本学との共同開催の形を取り、「主として大学と地域・社会との連携の工夫改善」部門の全 12 件の中に選ばれた。

同フェスタの作品制作にあたっては、劇は脚本作りから始め、他の演目も構成・演出から使用する音楽の作詞・作曲、ダンスの創作・振付、舞台装置の考案・製作など全てオリジナルで行なっている。1 年次生は約 50 名全員が出演者と舞台スタッフとして参加、2 年次生は卒業研究として表現系の研究室に所属した学生や表現系の選択科目を受講した学生が

出演または舞台スタッフとして参加し、それ以外の2年生は当日の会場スタッフとして、幼児教育学科の全学生がそれぞれの役割で参加している。この中で学生は、舞台進行は出演者だけで成立しているのわけではなく、いわゆる「裏方」のスタッフ等舞台に関わる全員が全体の進行を把握し各自の担当や役割を確実にこなすことで観客を感動させる舞台が成り立つということ、実体験をもって学んでいる。また音楽・身体表現・造形・言葉を担当する表現系教員が、各作品に対してそれぞれ専門分野に応じた指導を行い、表現系以外の教員・事務職員は当日の会場スタッフに加わるなど本学を挙げての協力体制をとっている。

この行事は「こどもフェスタ」と銘打っているが、子ども達はもちろんのこと、近年では大人、中でも高齢者の観客が増えている。また各地から多数の卒業生や在学生の家族が遠路はるばる来訪したり、他の保育士養成校からも見学に来たりするなど、世代や地域を超えた行事となっている。

当公演は地域の報道各社によっても積極的かつ好意的に広報・報道され多大な支援を得ている。第13回にあたる2004年2月の公演からは、本学の設置母体である阿新広域事務組合と連携し、情報通信ネットワークを使用しているライブ配信を行なった。

この度の採択で、本学は年間1550万円を上限に2年間にわたって補助金が得られることになる。この補助金を有効に使い、本学では、周辺4町での本公演以外の移動巡回公演、表現活動の教材としての「メイキングビデオ」の制作、機材や作業場の充実、光ファイバー使用の全国への公演映像の発信などを進めていきたいと考えている。

特色ある大学教育支援プログラム実施委員会の審査結果報告では採択理由として、オリジナリティにこだわり、教育と地域貢献をとおして学生のモチベーションや学習内容の向上を図っていることを挙げている。

この採択により、本学の幼児教育学科の優れた教育の取組みや学科体制にいわば文部科学省のお墨付きが得られたわけで、来年度以降の幼児教育学科への、またそれに連動して、看護学科および地域福祉学科、そして今年度から設置された地域看護学専攻科への受験生の増加が期待される。

栄えある採択の最大功労者である片山啓子教授は、「今まで14年間、地域の多くの皆さんに支えられ、学生・教職員が一丸となって頑張ってきた取組みがこのような形で認められて、喜びと共に感謝の気持ちでいっぱいです。これからも地域の子どもの皆さんたちをはじめ、一人でも多くの皆さんにもっともっと楽しんでいただける舞台を創っていきたく思います」と語っている。

「第14回にいみこどもフェスタ」は、2005年2月26日(土)まなび広場にいみにて開催予定である。今回の採択でさらにバージョンアップが期待されるので、多くの方々の来場を期待したい。

## 今年度開設された地域看護学専攻科について

本学では2004年4月に地域看護学専攻科(専攻科長:福岡悦子教授)が誕生し、定員どおりの15名の学生が入学し、無事前期を終えた。

地域看護学専攻科は、保健師および養護教諭(二種免許状)の養成コースであり、短期

大学の看護学科を卒業、または、修業年限 3 年以上の看護の専修学校を修了した人が入学対象者となる課程である。

開設 1 年目となり、専攻科 1 期生となる今年度は、15 名（女子 14 名、男子 1 名）の学生が、岡山県（9 名）、兵庫県（2 名）、静岡県、京都府、大阪府、広島県（各 1 名）から入学した。

本学専攻科の特長として、将来、地域に根ざした看護活動を展開することはもちろんだが、国際的な視野をも持ちえた専門的な活動ができるように専門基礎科目にボランティア論、国際保健論の科目を取り入れていることが挙げられる。

専攻科の 15 名の学生全員が、無事後期も終え、保健師国家試験に合格し、国際的な視野を備えた、地域に根ざした保健師になることが期待されている。

## 矢藤誠慈郎助教授

### 米国研究留学より帰国

幼児教育学科の矢藤誠慈郎助教授が 2003 年 8 月 21 日から 2004 年 6 月 22 日までの 10 ヶ月間の米国在外研究を終え帰国した。

矢藤助教授の専門は教育経営学であり、今回の在外研究のテーマは「保育者養成課程における教育改善に関する比較研究」であった。

矢藤助教授は、本学の設立母体の一つ大佐町の姉妹都市である、ニューヨーク州ニューパルツ・ヴィレッジにあるニューヨーク州立大学ニューパルツ校教育学部にて在外研究員として、幼児教育レベルを中心に、教員養成の実際などについて幅広く調査を行なった。

州立大ニューパルツ校の幼児教育講座は、

2001 年に設置された新しい組織であり、養成教育のみならず現職研修においても先進的な取り組みを実施している。また大学を含む周辺には、学内保育所、統合保育を実施している特別教育センター、病院内保育所、移民労働者向け保育所など多様な保育機関があり、こうしたさまざまな保育ニーズに対する専門職養成について調査することは、保育ニーズの多様化への対応という課題を持つ養成校にとっては極めて意義深いと考えられる。

また、矢藤助教授夫妻がニューパルツ・ヴィレッジ滞在中には、姉妹都市の大佐町から中学生の米国研修を含む 3 度の訪問団が訪問し、矢藤助教授夫妻は同姉妹都市交流にも多大な貢献をした。

矢藤助教授には、帰国後アメリカでの調査を踏まえて、保育者養成機関としての本学の幼児教育学科の教育のさらなる充実、また本学全体の教育改善やカリキュラム開発などにおいても、十分力を発揮してもらうことが期待されている。

矢藤助教授は今回の在外研究を終え、「今回の出張では、幼児教育学科の先生方はもちろん、事務局、そして他学科の先生方からも強力なサポートを得て、頑張ることができた。また州立大をはじめ、ヴィレッジや大佐町のみなさんの応援のおかげで予想以上に多くを学ぶことができた。これを自分の教育・研究はもとより、学科、大学や地域社会の将来につなげていきたい」と語っている。

## 安達雅彦教授 第13回

### フルートリサイタル開催

本学幼児教育学科の安達雅彦教授が2004年7月25日岡山市民文化ホールにて、「安達雅彦第13回フルートリサイタル」を開催した。中国短期大学音楽科の芦田田鶴子助教授がピアノ伴奏でリサイタルに花を添えた。

演奏曲目は、ソナタ 二短調(ブラーヴェ)、ソナタ 二長調(モーツァルト)、ジャズのエスプリによる協奏的作品(ポノー)、自然との対話 OHOKUNINUSHI 2003(安達雅彦)、ソナタ 八短調(グリーグ)の5曲であった。

リサイタル会場には、約200人が足を運び、素晴らしい音楽に耳を傾けた。当日の岡山市は暑い日であったが、すがすがしい演奏に聴衆は夏の暑さを忘れて聞き入っていた。

安達教授は、リサイタルを終え、「リサイタルには多くの方々聞きに来て頂いて感謝しています。演奏中は、芦田先生のピアノとの音楽的な会話が楽しかったです。映像とパソコンで編集した効果音を伴った自作曲が思いのほか評判がよく、今後もフルート演奏と共に作曲活動も続けたいと考えています」と語っている。

第14回フルートリサイタルは、2006年の初夏に開催の予定である。

### FD(教員研修)開催

2004年9月8日、本学でFD(ファカルティ・ディベロップメント=教員研修)が教務委員会教育改善部会(部会長:宇野文夫教授)主催で開催される。今年度の研修内容は、まず、2003年度「特色ある大学教育支援プロ

ラム」に採択された宮崎女子短期大学の「日本一の地方短大を目指す全学的FDの取組」を紹介し、本学の教育向上のための参考にする。また、本学における特色ある教育の実践を2件紹介し、片山啓子教授が「特色ある大学教育支援プログラム」採択の「地域と創る「にいみこどもフェスタ」」を、そして看護学科の古城幸子教授が、実績を上げつつある「新見介護ネット」について報告する。その後、本学におけるFD活動についてグループワークが行なわれる。有意義な研修が期待される。

## 2004年度

### オーストラリア研修旅行

2004年度のオーストラリア研修旅行が8月23日から9月4日の日程で開催される。行き先はメルボルン、参加学生は25名である。教養科の山内圭助教授が引率する。詳細は次号にて報告する予定である。

#### 編集後記

この度、この『新見公立短大ニュース』の編集を仰せつかり、初めて発行することになりました。不慣れなことですが、学内でどんな教育が行なわれ、我々教員がどんな研究や取組みを行っているかを学外の方々に少しでも理解していただける橋渡しができたら嬉しいと思っております。今回は「特色ある大学教育支援プログラム」採択というビッグニュースを伝えることができ、幸いでした。これからも喜ばしいニュースとして伝えるべきことが多い本学であり続けるよう全学を挙げて努力いたします。(編集担当:山内 圭)